

# 我的日常道德

菊池宽

(翻译 李轶伦)

一、来自比我富有之人的馈赠，我总是欣然接受。对于盛情款待我也毫不客气。总之，我对别人的好意向来是恭敬不如从命。无论是赠送还是接受，都应欣然爽快，这样会使人生更明朗美好。

一、别人请客时尽量多吃。不好吃的东西不必强说好吃，但如果好吃就一定要大加褒赞。

一、和别人一起吃饭时，如果对方的收入比自己少得多，就算他想付账也不让他付；而对方的收入相当高的话，对方想付就让他付。

一、别人对我有财物之求时，是否予以相助要视与其亲疏关系而定。只有一面之交的人，就算他再困难也会断然拒绝。

一、除了生活费以外，我一般不借给别人钱。并且，哪个朋友最多可以借多少，心中也是有数的。钱一旦借出就不要想能还回来，事实上也没有人还回来过。

一、一定要遵守约定。人们不遵守约定社会生活就无法正常进行。因此，除不可抗力以外，我从不失约。不过，有一种约定却无论如何也难以恪守，那就是稿约。

一、“某某人说你的坏话了。”这样的话，我基本上都当耳旁风。人们在背后经常说别人的坏话，可有时虽然嘴上说着坏话，却对那个人心怀尊敬之情。正所谓“坏话传千里，好话不出门”。

一、我从不过于谦虚。我对自己的价值不打折扣，同时要求对方给予相当的待遇。和别人一起乘车时，就算铺上垫子，我也不会坐在司机旁边的座位上。

一、就算是好心把自己的流言蜚语传达给我，我也不会领情。因为就算告诉我也无事于补，我更愿意耳不闻心不乱。

一、我经常腰带开了却全然不知。街上的人好意提醒我，但我却觉得他是多管闲事。腰带就算开了，可只要自己没有发觉就不是问题。我讨厌别人的指摘。因为这样的事情自己会注意到的。人生中的大事也一样。

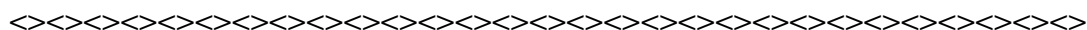
一、助人是人情，不是本分。

一、善以善待，恶以恶待。

一、让我评论一部作品时，对于粗劣的文章，无论多么打击作者的自尊心，打死我也不说一个好字。但对于优点，哪怕只是一点点，出于鼓励的目的，我会夸大地加以赞赏。

.....  
**菊池宽** Kikuchi, Kan (1888-1948)

出生于日本香川县高松市。就读于京都大学期间参加过第三次和第四次“新新潮”活动。早期作品有《屋顶上的狂人》、《父亲归来》等，但并未受到注目。在时事新报社工作期间发表了《无名作家的日记》、《恩仇彼岸》等作品，大受好评，并由此确立了在文坛上的地位。他创立了文学杂志《文艺春秋》和日本文艺家协会，对芥川文学奖和直木文学奖的创立也作出了很大的贡献。



一、私は自分より富んでいる人からは、何でも喜んで貰うことにしている。何の遠慮もなしに、御馳走にもなる。総じて私は人が物をくれるとき遠慮はしない。お互いに、人に物をやったり快く貰ったりすることは人生を明るくするからだ。貰うものは快く貰い、やる物は快くやりたい。

一、他人に御馳走になるときは出来るだけ沢山喰べる。そんなとき、まずいものをおいしいと言う必要はないが、おいしいものは明らかに口に出してそう言う。

一、人と一しょに物を喰ったとき、相手が自分よりよっぽど収入の少ない人であるときは、少し頑張ってもこちらが払う。相手の収入が相当ある人なら、向うが払うと言って頑張れば払わせる。

一、人から無心を言われるとき、私はそれに応ずるか応じないかは、その人と自分との親疎によって定める。向うがどんなに困っていても、一面識の人なれば断る。

一、私は生活費以外の金は誰にも貸さないことにしてある。生活費なら貸す。だが友人知己それぞれ心のうちに金額を定めていて、この人のためにはこのくらい出しても惜しくないと思う金額だけしか貸さない。貸した以上、払って貰うことを考えたことはない。また払ってくれた人もない。

一、約束は必ず守りたい。人間が約束を守らなくなると社会生活は出来なくなるからだ。従って、私は人との約束は不可抗力の場合以外破ったことがない。ただ、時々破る約束がある。それは原稿執筆の約束だ。これだけは、どうも守り切れない。

一、貴君のことを誰が、こうこう言ったとって告げ口する場合、私は大抵聞き流す。人は、陰では誰の悪口でも言うし、悪口を言いながら、心

では尊敬している場合もあり、その人の言った悪口だけがこちらへ伝えられてそれと同時に言った賞め言葉の伝えられない場合だって、非常に多いのだから。

一、私は遠慮はしない。自分自身の価値は相当に主張し、またそれに対する他人からの待遇をも要求する。私は誰と自動車に乗っても、クッションが空いているのに、補助座席の方へは腰をかけない。

一、自分の悪評、悪い噂などを親切に伝えてくれるのも閉口だ。自分が、それを知ったため、応急手当の出来る場合はともかく、それ以外は知らぬが仏でいたい。

一、私は往来で帯がとけて歩いている場合などよくある。そんなとき注意してくれると、いつもイヤな気がする。帯がとけているということは、自分で気がつかなければ平気だ。人から指摘されるということがいやなのだ。そんなことは、人から指摘されなくても、やがては気がつくことだ。人生の重大事についても、これと同じことが言えるかも知れない。

一、人への親切、世話は、慰みとしてしたい。義務としてはしたくない。

一、自分に好意を持っていてくれる人には、自分は好意を持ち返す。悪意を持っている人には、悪意を持ち返す。

一、作品の批評を求められたとき、悪い物は死んでもいいとは言わない。どんなに相手の感情を害しても。だが、少しいいと思う物を、相手を奨励する意味で、誇張して賞めることはする。

.....  
本文テキストは青空文庫（日本ペンクラブ電子文藝館編輯室）よりダウンロードし、歴史的かなづかいを現代かなづかいに改めたものです。